

赤川流域の河川改修により堤防決壊を回避

3か年緊急対策

5か年加速化対策

国土強靱化

NATIONAL RESILIENCE

災害時の効果発揮事例

概要 要: 3か年緊急対策、5か年加速化対策などにより、河道掘削を集中的に実施。河道掘削及び月山ダムの洪水調節により、令和6年7月洪水において約2mの水位を低減させ、赤川本川の堤防決壊を回避し浸水被害を防止。

対策名: 1-1流域治水対策(河川) <5か年加速化対策>【国土交通省】

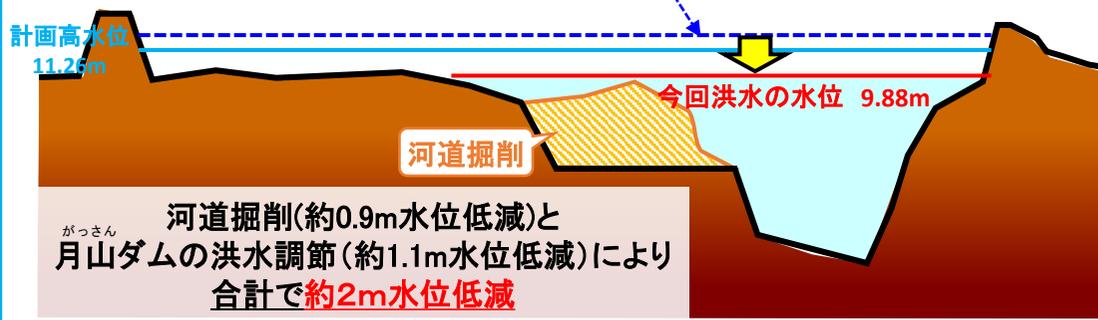
1全国の河川における堤防決壊時の危険性に関する緊急対策<3か年緊急対策>【国土交通省】

- 実施主体: 国土交通省東北地方整備局
- 実施場所: 山形県鶴岡市、酒田市、三川町
- 事業概要: 赤川流域の河道掘削等(H25~R5年度)
- 事業費: 72億円

主な事業	実施内容	事業費	実施期間
赤川直轄河川改修事業	河道掘削等	約72億円	H25~R6
うち3か年緊急対策	河道掘削等	約13億円	H30~R2
うち5か年加速化対策	河道掘削等	約10億円	R2~R5

水位低減効果(横山水位観測所)

河道掘削が行われず、洪水調節が行われなかった場合の水位11.91m(推定)



令和6年7月洪水時の効果

未整備の場合

河道掘削やダムによる洪水調節が行われなかった場合は、計画高水位を超えていたと想定される

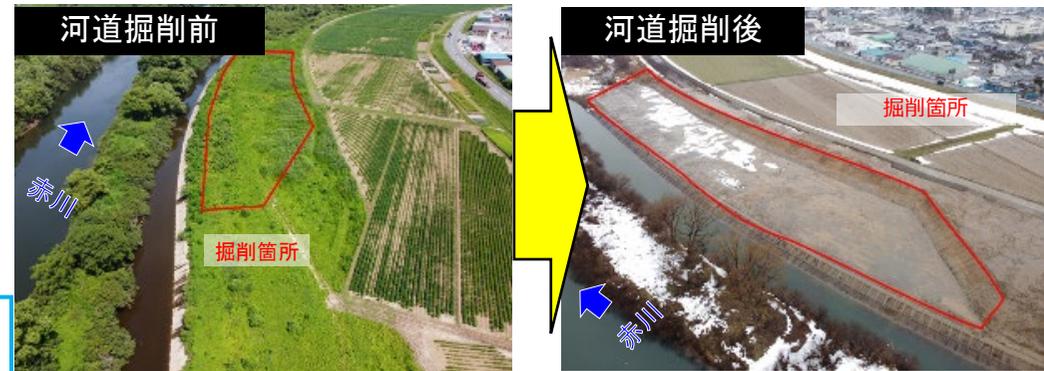
総雨量285mmを記録(観測史上1位) [湯殿山雨量観測所] ※2日間で平年7月降雨量の約9割

これまでの治水対策により、約2mの水位を低減効果を発揮し、堤防決壊を回避

※計画高水位: 川の堤防工事などの基準で、その堤防の耐えられる最高の水位

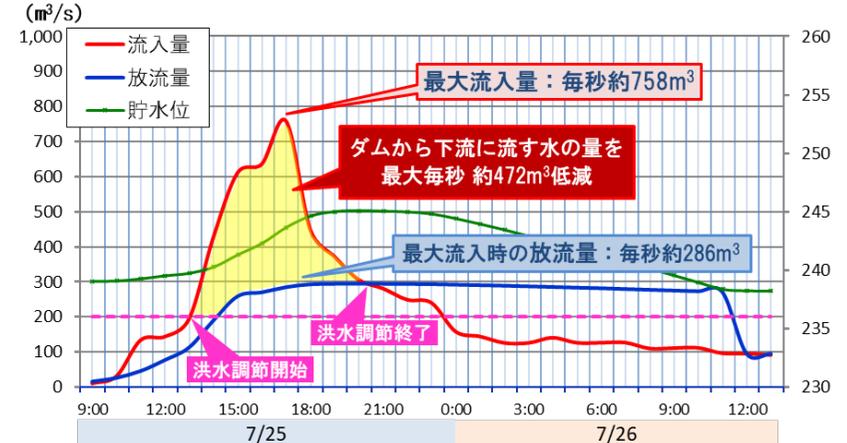
3か年緊急対策、5か年加速化対策などによる河道掘削により水位低減効果を発揮

これまでに約63万m³の河道掘削を行い、約0.9m水位を低減



月山ダムにて洪水調節効果を発揮

東京ドーム約4.2杯分(524万m³)を貯留し、約1.1m水位を低減



※本資料の数値は、令和6年8月時点の速報値であり、今後の精査により変更となる場合がある